

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	高村, 象平
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1948
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.41, No.1/2 (1948. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19480201-0107

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

於ても、資本主義的發展に對する制約は極めて大であれ、資本主義の一般的法則は貫徹し、舊き封建的遺物を漸次破壊し、農業をも資本が把握し、資本が自己に適應した型態に農業を變形しつゝあると云ふ事實の一般的方向はこゝに明白に、而も具體的に究明せられたのである。が、それを、農業に於ける資本主義的經營の發展との關聯を如何に考へ、我國農業に於て如何に把握するかに未だ多くの問題點が残されてゐる。著者は兩者を一應區別し、我國農業に於ける問題點を次の如く指摘される。一問題は我農業への資本主義的侵入が不可能な事にあるのではなく、それが餘りにもカンマンであり、貧弱な所にこそ矛盾のより大なる發展が現はれてゐると云はねばならないのである。」(二六七頁)こゝより氏は結論として實踐的課題を強調する。井上氏の批判の一要點が右に關するものであつて多くの指摘點を含むものであるが、未だ解決せられざる多くの問題を残して居ると云へやう。

舊著「日本農業論」が發刊せらるゝや木村莊之助氏等により批判が加へられるに至つたが、未だ一般的には本書の持つ方法的見地や具體的な諸問題への究明の意義は充分認識せられず、其上一種の信仰にまで結晶化されてゐた當時の講座派の見解に對して未だ全面的に充分なる批判たり得なかつた點や、客觀的狀態の不溫等より、充分なる理論的展開を見ずして終つて居ると云へやう。

編輯後記

コンコードの詩人ソローは、その著「ウォルデン——森の生活」の中で、彼が雜草を抜いてゐた時に一羽の雀が肩に止まつたが、それは彼の着けた如何なる肩章よりも優れたものだと思つたことであつたと述べてゐる。偶々ソローの著者をつとめてゐると、右の箇所に朱線が引いてあるのを見て、二十餘年前まだ私が金ボタンの制服を着てゐた頃、初めてこの本に接した時に受けた感慨と變らぬものを、再び味ふことが出来たやうな氣がした。すべての人々がソローの右のやうな氣持を抱くやうになつたならば、世の中はどうか變ることであらうか。ソローと彼の時代、そして現在の世相などと、考へさせられるところが極めて多い。

用紙割當量の不足と發行日の遅延との二つの障礙を切り抜けるため、年頭早々二ヶ月合併號を編輯するの止むなきに至つた。改卷直ちに泣き言を並べるのは甚だ不本意であるが、どうにも仕様がなないといふところである。その代り「といふと一寸をかしきこえるが——この合併號の内容は、従來の本誌と稍々行き方を異にしてゐることに、年來の讀者はお氣付きかと思ふ。幸田名譽教授の解題ものと羽原講師の研究とは、固いものばかりを集録してゐたいままの本誌にとつて、違つた持ち味のものである。」

昨年下半期に、當學會は次の如き研究發表會を塾内で開いた。ここに報告者、題目などを報告する。

- 山本 登氏 「戦後の世界植民地問題」(七月十七日)
- 小池 基之氏 「戦後における農業理論の展開」(十月二日)
- 山中淳三郎氏 「戦後のソ連農業の動向」(十月廿三日)
- 鈴木 保良氏 「配給の機能」(十一月十三日)
- 金丸 平八氏 「明治初期農政史の一研究」(十一月廿七日)
- 寺尾 琢磨市 「人口問題における陶汰と逆陶汰」(十二月十一日)

(高村 象平)

た。然し乍ら、本書の持つ意義を既に高く評價する論者も現れてゐた。云はゞ「折衷派」「中間派」と云ふ誠に有難くない名稱の下に不當の評価を受けて居たのではなからうか。

註、「レーニン」「ロシヤに於ける資本主義の發達」神山茂夫氏著「日本農業に於ける資本主義の發達」(二二・二二・二二)

前號(昭和二十二年)目次

慶應義塾九十周年記念論文集第二輯

- 企業の再建と經營分析 三邊 金藏
- 企業批判の基準 小高 泰雄
- 國民優生法改造私案 寺尾 琢磨
- 米國經濟の一側面——その地域的構造 小島 榮次
- 無額面株 町田 義一郎
- 卸商業論 鈴木 保良
- 累積過程の變則 千種 義人
- 戦後世界植民地問題の所在點 山本 登

禁轉載

昭和二十三年一月二十五日印刷 第四十一卷
 昭和二十三年二月一日發行 第一・二號

本號定價、金四拾五圓
 送料 二圓四十錢

編輯者 高村 象平
 發行所 東京都港區芝三田豐岡町八
 印刷者 川口 芳太郎
 印刷所 東京都港區芝三田豐岡町八
 圖書印刷株式會社

豫約購讀料 一年分 金三百五十圓(送料共) 半々年 金百七十五圓

豫約購讀料は發賣所宛お拂込み下さい。諸代變更の場合は精算決済致します。編輯に關する用件は發行所へ營業に關する用件、購讀申込は發賣所へ願ひます。

發行所 東京都港區芝三田三丁目慶應義塾大學經濟部研究室内
 慶應義塾經濟學會
 東京都港區芝三田二ノ一
 日本出版協會員B二二〇二六

發賣所 慶應義塾出版部
 日本出版協會員A二二〇一九

郵政元 東京都千代田區 日本出版配給株式會社